

令和5年度 東京都公立大学法人中期計画進捗状況に対する所見

東京都公立大学法人（以下「法人」という。）の業務実績について、地方独立行政法人法に基づき実施する評価に資するため、令和5年度末時点における中期計画の進捗状況を法人が自ら確認した結果について、以下のとおり所見を取りまとめる。

■ 主な所見

東京都公立大学法人は、第四期中期計画の初年度である令和5年度において、新たに柱に据えた「社会との価値共創」をはじめとする幅広い事業を展開し、その多くで評価指標の達成に向けて着実に取組を進めており、順調な中期計画の進捗状況にある。

【東京都立大学】

日野キャンパスに新設した「TMU Innovation Hub」において、インキュベーションルームの入居者等に対して専門家による起業に関する相談等を実施するとともに、産学公連携研究も開始しており、多摩地域のイノベーション拠点としての発展が期待される。

【東京都立産業技術大学院大学】

文部科学省の補助金を活用して開講した正規課程外のリカレント教育プログラムに定員の8倍を上回る応募があった。選考の結果、受講できなかった応募者等を対象としたオンラインによる部分受講プログラムを実施するなど、社会のニーズに応えるリカレント教育を行っている。

【東京都立産業技術高等専門学校】

スタートアップ教育支援プログラム「地動計画」を令和5年度に試行し、先輩起業家や起業支援に実績のあるNPO法人の協力を得ることで、学生のスタートアップへの関心を高めるとともに、学年横断、キャンパス合同の取組により、学生間の交流の活性化も図っている。

【法人運営全般】

東京都公立大学法人 DEI 推進宣言、3か年の DEI 推進基本計画等を策定し、令和6年度から、教職員の意識改革を促進するための研修や、参加しやすいワークショップ等を実施することとしている。

■ 総括

東京都公立大学法人（以下「法人」という。）は、第四期中期計画の初年度である令和5年度において、新たに柱に据えた「社会との価値共創」をはじめとする幅広い事業を展開し、その多くで評価指標の達成に向けて着実に取組を進めており、順調な中期計画の進捗状況にある。

法人の設置する東京都立大学（以下「都立大」という。）、東京都立産業技術大学院大学（以下「産技大」という。）及び東京都立産業技術高等専門学校（以下「産技高専」という。）は、加速する社会の変容を更なる飛躍のチャンスと捉え、それぞれの特色や個性を活かして、イノベーションの創出や東京の成長を支える人材の育成に資する新たな取組を推進している。

今後、先端技術の発展や人口減少、国際的な人材獲得競争の激化など法人を取り巻く環境が変化し続ける中、中期計画をより高いレベルで達成していくためには、法人として将来を展望し、取組の道筋や目標を明らかにしつつ、状況に応じて柔軟に取組を修正・強化していくことが望まれる。

■ 項目別所見

※項目別所見は、「社会との価値共創」「教育」「研究」「法人運営」など、中期計画の一定のまとまりごとに、優れた点・特色ある点、改善・充実を求める点について所見を付している。

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 社会との価値共創に関する目標を達成するための措置

大項目番号1 都や区市町村等との連携

◎優れた点・特色ある点

- ・都の課題解決に資する調査・研究について、毎年継続的に18件、6年間で100件以上のプロジェクトを実施するという挑戦的な評価指標を設定し、順調に成果をあげている。
- ・都や自治体等との連携による人材育成について、政策能力の育成に向けた東京都人材育成センターとの協働や、災害等に備えた医療人材の育成に向けた都立病院との連携を実施している。今後、事業件数など客観的な成果の見通しについても検討するとともに、育成の対象をより明確にすることなどで、都立の大学ならではの取組を推進することが期待される。

大項目番号2 産学公連携、地域貢献・生涯学習、卒業生・修了生との関係強化

◎優れた点・特色ある点

- ・日野キャンパスに新設した「TMU Innovation Hub」において、インキュベーションルームの入居者等に対して専門家による起業に関する相談等を実施するとともに、産学公連携研究も

開始しており、多摩地域のイノベーション拠点としての発展が期待される。

- ・ 専門人材による講座や様々な業界の起業家の講演などアントレプレナーシップ教育を進め、学生に対して起業家精神の気運醸成を図っている。今後、令和6年度から開講する授業の履修者数等の見通しを検討しながら、取組の充実を図ることが期待される。
- ・ オープンユニバーシティの公開講座については、受講満足度が90.7%と評価指標を大きく上回っている。今後、実績を踏まえた満足度の見通しを検討し、取組を推進することが期待される。
- ・ プレミアム・カレッジにおいて、募集人員を超える出願者数を安定的に確保しており、評価指標の達成に向けて順調に進んでいる。

◇改善・充実を求める点

- ・ 大学発ベンチャーについて、6年間で24社を創出するという評価指標に対し、令和5年度の実績は1社となっているため、指標の達成に向けて行動計画を具体化し、今後の道筋も示しながら取り組むことが望まれる。また、教員、学生等に対する起業家マインドの醸成に取り組んでいくこととしているが、起業までの個別支援などの取組の充実が期待される。
- ・ 寄附件数について、6年間で150件以上という中期計画の評価指標は既に達成されている。他大学の取組も参考として工夫するなど、更なる寄附の獲得に向けて取り組むことが望まれる。

2 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号3 教育内容等の充実、教育の質向上、社会人学生の受入推進

◎優れた点・特色ある点

- ・ 数理・データサイエンス副専攻コース、国際金融人材育成特別プログラム、医療人材育成プログラム等、特色ある新たな教育プログラムの展開に取り組んでおり、社会からの人材育成ニーズに応えようとする大学としての積極性を感じ取ることができる。
- ・ 防災・防疫、AI・人間などのテーマについて文理の枠を超えて学ぶ文理教養プログラムや、TAを組織的に活用して学生の主体的学びを促進するプログラムなどの取組も積極的に展開されている。
- ・ 全ての学部が専門分野に応じて、教学IRを活用した取組を行うとともに、アセスメントによる教育改善を組織的に行うための課題や事例を全学で共有するセミナーを開催している。今後、アセスメント・ポリシーを学内に一層浸透させていくことが期待される。
- ・ データサイエンスに関する社会人向けリカレント講座の令和5年度新規開設や、大学院博士後期課程への社会人入学者比率を平均30%以上とする評価指標について、順調に実施している。博士後期課程への社会人入学者比率については、既に42.8%を達成しており、今後ど

のような水準を目指すのか、取組の方向性を明らかにすることが期待される。

◇改善・充実を求める点

- ・新たな教育プログラムについて、修了者数が評価指標として設定されているが、各プログラムの成果を検証する上で、履修者に対する修了者の割合の実績も示すことが望まれる。また、各プログラムが育成する人材のイメージをより明確にし、修了者の質保証のシステムを検討することが期待される。
- ・文理教養プログラムについて、将来的に文理融合教育の重要性が増していくことが予想されるため、より多くの学生が履修することができる体制づくりや学生への周知等の工夫に取り組むことが望まれる。

大項目番号4 グローバル教育

◎優れた点・特色ある点

- ・学部への秋入学の導入準備を進めるとともに、幅広い国々に向けたプロモーションを展開するなど、留学生の出身地域の多様化を図りながら優秀な人材を受け入れようとする取組を行っている。
- ・円安や物価高騰に応じて、海外に派遣した学生に臨時の経済支援を実施するとともに、日本人学生の留学促進に向けた取組を活発に行っている。

◇改善・充実を求める点

- ・在籍留学生数を中期計画期間の最終年度である令和10年度までに940名以上にするという評価指標は意欲的だが、コロナ禍の影響もあり実績と乖離がある。要因分析を踏まえて指標の達成に向けた今後の見通しを検討し、留学生の出身地域の多様化や優秀な人材の受入れ拡大に資する取組の充実を図ることが求められる。
- ・海外派遣学生数を6年間累計で2,100名以上にするという挑戦的な評価指標についても、コロナ禍や円安の影響もあり実績と乖離がみられるため、要因分析を踏まえて指標の達成に向けた今後の見通しを検討し、効果的で多面的な取組を更に充実させることが求められる。
- ・交換留学生向けプログラムにおける各学部からの英語実施科目の提供数は、特定の学部で増加しているのみで、他は足踏みか減少となっている。今後の英語実施科目の更なる増設に向け、留学生のニーズを踏まえた他学部への展開の検討も望まれる。

大項目番号5 学生への支援

◎優れた点・特色ある点

- ・授業料の減免について、従来から、都立大独自の制度により、国の修学支援新制度より手厚い、充実した経済支援を継続して実施している。

- ・キャリア支援において令和5年度から新たに、いわゆる発達障害の「グレーゾーン」に当たる可能性のある学生向けのイベントを実施し、自己理解や適切な進路選択を支援している。
- ・全キャンパスにおいて評価指標に掲げた1 Mbps以上の通信速度を実現している。

◇改善・充実を求める点

- ・学生の健康診断受診率は、改善が見られるが、引き続き受診率の向上を目指した取組が求められる。
- ・全ての学生が安心できる教育環境の提供に向け、セクシュアル・マイノリティ教職員研修の受講者については、6年間で150名以上という評価指標の達成に向けて順調な実績をあげているが、社会情勢に鑑みて取組の充実を図るため、受講者数の見通しを検討することが望まれる。さらに、学生を対象としたセクシュアル・マイノリティに関する講習会等についても、取組を充実することが期待される。

大項目番号6 入学者選抜

◎優れた点・特色ある点

- ・都と連携して都立高校等の生徒を対象に、最先端の研究成果に関する講演を行う先端研究フォーラム等のイベントを定着させている。
- ・大学ゆかりの植物学者、牧野富太郎博士をモデルとするテレビドラマの放送を契機とした知名度向上に関する取組について、充実した情報発信により、企画展に多くの参加を得て、牧野標本館への理解促進を図った。

◇改善・充実を求める点

- ・入試広報や入学者選抜の見直し、高大連携活動等の取組の成果について、SNSのフォロワー数や高校生向けプログラムの参加者数など定量的な形でも示すことが望まれる。

3 研究に関する目標を達成するための措置

大項目番号7 研究推進、研究成果の発信、研究実施体制等

◎優れた点・特色ある点

- ・都、自治体等との共同研究は、傾斜的研究費の学長裁量枠の支援により、6年間に20件以上という評価指標の達成に向けて順調に進んでいる。
- ・トップ研究者をコアとした研究体制について、これまでの実績の経験を生かして拠点を増やし、充実させようとする取組の成果が期待される。
- ・研究広報について、様々なツールを活用して、研究成果の情報発信の活性化を図っている。
- ・博士人材支援室を新設し、国の補助事業を活用した博士後期課程学生向けの経済的支援やキ

キャリアパス形成支援など、博士人材への多面的な支援を行っている。

- ・魅力ある研究環境整備に向けた利便性の高いネットワーク構築や研究データの適切な管理のための体制整備に取り組んでいる。

◇改善・充実を求める点

- ・被引用度トップ10%論文の割合については、学長裁量枠による研究費支援等の効果が出ることを期待したいが、重点的に支援する分野の点検等の更なる対応策の検討も求められる。
- ・テニュアトラック制度について、利用実績が無かったことの原因を分析した上で制度改善を図り、制度を活用する学内各部局の理解促進に取り組むことが望まれる。併せて、クロスアポイントメント制度の活用により教員の流動性を一層高めるなど、教育研究力の強化・進化に向けた取組の充実が期待される。
- ・国際共同研究の採択・契約件数が対第三期中期計画比、前年度比で大きく減少しており、対応策の検討が求められる。
- ・研究ポータルサイト等による研究情報の発信件数については、評価指標では年5件以上とされているところ、令和5年度の実績は33件であった。令和6年度以降の見通しについても、引き続き研究大学としてのビジビリティの向上という中期計画にふさわしい発信件数とすることが望まれる。
- ・科研費の採択金額は概ね評価指標で目指している金額に達しているが、新規採択件数が前年度よりもかなり低下しており、要因の分析と対応策の検討が望まれる。

II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 社会との価値共創に関する目標を達成するための措置

大項目番号8 都連携及び産学公連携、学び直し支援、修了生との関係強化

◎優れた点・特色ある点

- ・学外と連携した教育研究を進めるため、関係各所と綿密な連絡を取り、既存の教育研究事業を評価・見直しし、時宜にあった新たな教育研究事業の展開を行う、というスクラップ&ビルドが機能している。
- ・東京商工会議所の相談窓口を経由した技術相談を実施しているが、今後も都内の経済団体や都の政策連携団体等の外部機関との連携事業を通じて、東京の産業振興に一層貢献することが期待される。
- ・産技大教員だけでなく、企業で活躍する方や専門家が講師となり、学内外から自由に参加できる無料の公開講座である AIIT フォーラムや、国内外の機関と連携したイベントについて、

社会からのニーズを捉えた新規プログラムを毎年実施するという評価指標を設定し、参加者から高い満足度を得て実施している。

- ・修了生が常に産技大とつながっていられるような仕掛けを様々用意して運営しており、その効果が大いに期待される。

◇改善・充実を求める点

- ・AIIT フォーラム等のイベントについて、事業の効果を測り、発信する上で、実施内容だけではなく視聴回数等の実績も明らかにすることが望まれる。

2 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号 9 教育内容等、教育の質向上、多様な人材への学修機会提供

◎優れた点・特色ある点

- ・産技大の教育の特長である PBL (Project Based Learning) 型教育に関する学内セミナーに、教員だけでなく職員も参加し、教職協働の情報共有が推進されている。
- ・産業界の専門家や経営者等の学外委員を中心メンバーとする運営諮問会議の意見を踏まえ、学生が取得した学位・資格の学修内容についての証明書であるディプロマ・サプリメントの改善に取り組んでいる。
- ・産業界からのニーズを教育内容に積極的に取り入れている姿勢は高く評価できるが、一方で自ら専門職大学院としてのあるべき将来像を長期的な視点で検証・構築し、社会に理解を深めてもらう働きかけを行うことも期待される。
- ・学内データを収集・分析し、改善施策の立案・実行・検証を行う IR (Institutional Research) 活動のために特任教員を雇用するとともに、全教職員が内部質保証に関する当事者としての問題意識を持てるように、組織体制・運営方法を工夫するなど、教育の質の向上に努めている。
- ・文部科学省の補助金を活用して開講した正規課程外のリカレント教育プログラムに定員の 8 倍を上回る応募があった。選考の結果、受講できなかった応募者等を対象としたオンラインによる部分受講プログラムを実施するなど、社会のニーズに応えるリカレント教育を行っている。

大項目番号 10 グローバル教育

◎優れた点・特色ある点

- ・グローバル人材に求められる能力指標について、調査内容を拡充するとともに、入学時と修了時の調査内容を統一することで、在学期間におけるグローバル能力の成長を確認できるよう改善した。

・グローバル PBL をはじめ、海外大学との連携・交流について一定の実績がみられる。海外からの学生受入れ拡大を含めたグローバル化の取組について、一層の活性化を図るとともに、積極的に情報を発信することが期待される。

◇改善・充実を求める点

・新たなグローバル人材の能力指標を満たす学生の割合を 80%以上にするという評価指標の達成に向けて、今後の道筋等も示しながら取り組むことが望まれる。

大項目番号 1 1 学生への支援

◎優れた点・特色ある点

・学生一人一人に対して担任教員を設定して、丁寧な学習支援、キャリア開発支援を行っている。
・高度専門職業人養成を目的とする専門職大学院である産技大の特色を考慮して、大学入学から在学中、卒業後までを一貫してサポートする学生支援策であるエンロールメント・マネジメントを導入するため、コンサルティングの契約を行い、専門家からの講義やアドバイスを受け、計画策定の参考としている。

◇改善・充実を求める点

・エンロールメント・マネジメントを通じた学生支援について、目指すところを具体化するとともに、関連する実績や学生の状況を客観的に示すなど、取組とその成果を明らかにしていくことが望まれる。

大項目番号 1 2 入学者選抜

◎優れた点・特色ある点

・学長等による精力的な企業訪問・渉外活動、その他工夫した広報活動により、十分な入試の志願倍率を得ているが、教育内容・成果に鑑みると、倍率の更なる上昇が期待される。

3 研究に関する目標を達成するための措置

大項目番号 1 3 研究推進及び研究成果の発信

◎優れた点・特色ある点

・多様な研究成果発表の機会を調整し、全ての教員が研究成果を社会へ発信・還元するという評価指標の達成に向け、着実に取組を推進している。
・専門職大学院の目的である高度専門職業人の養成に向けた研究成果について、毎年度シンポ

ジウムを開催して公表し、教育手法の普及に取り組んでいる。

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置

1 社会との価値共創に関する目標を達成するための措置

大項目番号 14 都連携、産学公連携、地域貢献、卒業生・修了生との関係強化

◎優れた点・特色ある点

- ・小中学生向け ICT・IoT 教育講座は、前年を大きく上回る参加者を集めており、社会貢献性が高いだけでなく、産技高専を知ってもらう上でも有効である。令和5年度の参加者実績を踏まえて今後の見通しを検討し、更なる取組の充実を図ることが期待される。
- ・スタートアップ教育支援プログラム「地動計画」を令和5年度に試行で開講し、先輩起業家や起業支援に実績のある NPO の協力を得ることで、学生のスタートアップへの関心を高めるとともに、学年横断、キャンパス合同の取組により、学生間の交流の活性化も図られている。
- ・品川キャンパスの電気電子工学コースにおいて、再生可能なエネルギーを活用した実験実習科目を採り入れるカリキュラムの改編やコース名の変更に向けた準備が進んでいる。
- ・卒業生・修了生による特別講座の開講やホームカミングデーの開催に向け、卒業生等との結びつきの構築に取り組んでいるが、卒業生等の要望も取り入れていくことが期待される。

◇改善・充実を求める点

- ・地域貢献・研究推進センターの活動や荒川キャンパスの施設を活用した取組についても、公開講座等の開催回数や参加者数などの見通しも示しながら取り組むことが望まれる。

2 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号 15 教育内容等、教育の質向上、社会人のスキルアップ支援

◎優れた点・特色ある点

- ・教育コースの再編・新設を行い、社会状況の変化に速やかに対応して、教育に取り組んでいる。
- ・医工連携分野をテーマに IoT と AI 技術の社会実装について学ぶ「未来工学教育プログラム」において、第1期生 16 名全員が修了した。参加学生の高い満足度を得るとともに、先端技術を更に学びたいという意欲を創出し、高い進学率につながっている。
- ・企業や社会貢献団体から講師を招き、産業界のニーズを捉えた SDGs や国際化について学ぶ講座を開催し、1年生全員が受講した。
- ・産業界、教育、行政機関の有識者で構成される運営協力者会議による外部評価等を踏まえた

教育内容の不断の改善に組織的に取り組んでいる。

◇改善・充実を求める点

- ・評価指標に数値を設定している計画について、進捗状況のチェックを可能とするために、6年後の最終年度だけではなく、途中の見直しについても検討することが望まれる。
- ・医工連携をテーマとした未来工学教育プログラムは、修了者アンケート結果によると、知識やスキルを獲得できたという回答が多くなっており、思考力やコミュニケーション能力等についても一層成長・向上が実感できるカリキュラムへと充実を図ることが望まれる。
- ・荒川キャンパスにおけるリカレント講座について、申込者が少ない状況にあり、社会人のニーズに応じた講座内容の見直しや外部委託を活用した広報活動の強化等により受講者増を図ることが求められる。

大項目番号16 グローバル教育

◎優れた点・特色ある点

- ・海外体験プログラムについて、円安等により渡航費用が高騰する中、経済的支援をしつつ、国外でのフィールドワークや海外企業における職場体験等、充実したプログラムを着実に実施している。

大項目番号17 学生への支援

◎優れた点・特色ある点

- ・保健室、学生相談室、カウンセラー及び学校医との情報交換会を毎月開催し、支援が必要な学生の状況確認を行うなど、多部門・多職種で連携したきめ細かな学生支援を実施している。今後も充実した支援を継続していくため、教職員向けの研修や関係者の負担軽減などに取り組んでいくことが期待される。

大項目番号18 入学者選抜

◎優れた点・特色ある点

- ・新たに学生広報チームを立ち上げ、学生目線を取り入れたコンテンツを作成するとともに、学校内を360°パノラマビューで見ることができるバーチャル学校見学を導入するなど広報の工夫、充実を図っており、令和4年度と比べて、ホームページへのアクセス数が倍増している。
- ・地元自治体との協定に基づき実施している特別推薦入試の枠を各キャンパス3名以上とするための取組が順調に実施されている。
- ・特別推薦入試枠の拡大を見据え、令和6年度入学から推薦選抜の募集人員を増員し、その影

響を見極めているとのことであるが、推薦入学者の学習状況などの成果も検証した上で、特別推薦入試枠の拡大について引き続き検討することが期待される。

3 研究に関する目標を達成するための措置

大項目番号 19 研究支援の充実及び研究推進

◎優れた点・特色ある点

- ・優れた業績をあげている教員について、一定期間継続的に調査研究に専念することを認める特別研究期間制度を3名の教員が活用し、専門分野の能力向上に努めている。制度を活用した教員の研究が、より多くの優れた成果発表につながるよう、産技高専としての研究成果発表の指針を教員に示すことが期待される。

IV 法人運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

大項目番号 20 組織運営の改善、組織連携の推進

◎優れた点・特色ある点

- ・社会状況の変化に対応した法人経営に資するため、経営審議会において、生成 AI の活用、日本の科学技術力の低下といった高等教育を取り巻く課題について意見交換を行っている。こうした議論の場を通じて、俯瞰的かつ中長期的視野に立ったビジョンを打ち出していくことが期待される。
- ・都が令和6年度から開始する都内子育て世帯に対する授業料実質無償化の実施に合わせて、授業料減免のオンライン申請導入に向けた環境整備を推進した。優秀な学生の獲得にもつながることが期待される。
- ・都や各自治体のニーズを踏まえた研究等の連携事業を年間170件以上実施している。
- ・2大学1高専の教員による実験機器の共同利用の検討や、研究内容の近い教員同士をマッチングする仕組みの構築などに取り組むとともに、5件の共同研究事業を開始した。
- ・2大学1高専の学生がチームを組み、課題解決力やコミュニケーション能力を養う海外体験プログラムを継続して実施している。2大学1高専の学生が参加できるスタートアップに向けたアントレプレナーシップ教育等によって、年代を超えた学生交流の促進に取り組むことが期待される。

◇改善・充実を求める点

- ・組織横断的な検討体制を構築して運用することなどで、経営審議会が社会状況の変化に機動的かつ柔軟に対応できる成果を生む議論ができるようにしていると思われるが、こうした取

組が効果的に機能しているのか、具体的な成果を明らかにしつつ、中期計画期間中に定期的に点検を行うことが望まれる。

- ・2大学1高専それぞれの存在感だけでなく、都立の高等教育機関全体としてのプレゼンスを高めるため、2大学1高専の更なる戦略的な連携によるシナジー価値創出をより深く検討することが望まれる。

大項目番号21 組織強化及び業務改善、施設設備の整備

◎優れた点・特色ある点

- ・積極的な採用広報の展開など優秀な職員確保に向けた取組を強化するとともに、エンジニアリングデザイン研修など職員の企画提案力向上に資する研修を新たに導入している。
- ・都立大において、若手研究者の研究力向上に向けて、日本学術振興会特別研究員を雇用するための職を新設するとともに、産技高専において、教員の教育管理体制の強化に向けて、コース長及び一般科長の職責拡大やそれに伴う給与の加算を行うなど、教員等の能力や意欲を引き出すための取組を行っている。
- ・文書管理システムの導入によるシステム起案方式への移行や、財務会計システムにおける伝票審査の電子化に向けた取組など、事務処理のデジタル化による業務効率化を推進している。
- ・多様な人材が活躍できる組織運営を行うために、東京都公立大学法人 DEI 推進宣言、3カ年の DEI 推進基本計画等を策定し、令和6年度から、教職員の意識改革を促進するための研修や、参加しやすいワークショップ等を実施することとしている。

◇改善・充実を求める点

- ・業務を一層効率的かつ効果的に実施できるよう、定例業務の集約化について早期実現が望まれる。

大項目番号22 ガバナンスの強化

◎優れた点・特色ある点

- ・法人に情報化戦略を統括する最高情報責任者 (Chief Information Officer) を設置し、情報化戦略会議を開催すること等により、法人全体の情報化推進に向けた取組を進めている。
- ・強固なクラウドサービスを導入し、教職員のメール及び職員の端末に対する監視機能を一部強化する等、情報セキュリティ対策を強化している。

2 財務運営の改善に関する目標を達成するための措置

大項目番号 2 3 財務内容の改善

◎優れた点・特色ある点

- ・牧野標本館の企画展に合わせて植物標本の保存等を目的とした寄附を募集し、高額寄附者に対して非公開の標本庫ツアーなどの特典を用意するなど寄附者目線に立った工夫を行い、都立大への寄附の件数や金額の増加につながった。今後、こうした取組が他の教育研究事業にも広がっていくことが期待される。

3 評価及び情報提供に関する目標を達成するための措置

大項目番号 2 4 評価の充実、情報公開や情報発信等の推進

◎優れた点・特色ある点

- ・組織横断的に戦略的な広報について検討が行われており、2 大学 1 高専と法人で構成される広報担当者連絡会の役割の拡充も図っている。

◇改善・充実を求める点

- ・地方独立行政法人法改正により、令和 6 年度から都の評価委員会による年度評価が廃止され、法人が中期計画の進捗を自ら管理する制度が開始したため、これまで以上の自主性の発揮が望まれる。

4 その他重要事項に関する目標を達成するための措置

大項目番号 2 5 その他重要事項

◎優れた点・特色ある点

- ・サステナビリティをテーマに、研究成果を都政に還元することを目的とする TMU サステナブル研究推進機構において、SDGs 実現に向けた調査研究を実施し、研究成果等の情報を発信している。
- ・カーボンニュートラルの実現に向けて、ロゴマークの作成、PT による検討、職員向け研修等により、機運醸成や事業化に向けた検討が進んでおり、環境報告書の公表、国内最大級の環境系展示会であるエコプロへの出展により、法人の取組の社会への情報発信も行われている。